第７１回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 特賞

東京朝鮮中高級学校 高級部 ３年
康 英淑

課題①
これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界の姿とはどんなものと考えるか。
そのために私たちが優先して取り組むべき課題とは何か。

副題
歌と踊りで心を繋ごう

私は朝鮮学校に通う高校３年生です。

みなさんは朝鮮学校と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？多分、あまりよく知らない人が多いのではないかと思います。

私が中学一年生の時のことです。下校中、あるおばあさんに
「どこの学校に通っているの？」
と聞かれ、十条にある朝鮮学校に通っている、と答えると
「朝鮮学校？それって北朝鮮の？そんなこわい国の学校があるの…？」
と言われたことがあります。その言葉を聞いた時私は、私とそのおばあさんとの間に心の壁を感じました。わからないことは決して悪いことではないと分かってはいても、おばあさんのその言葉は私の頭から離れることはありませんでした。その時から私は、どうしたら私たちのことを、朝鮮学校のことを分かってもらえるのか、考えるようになりました。

その答えになりうるヒントを得たのが、今年の夏休みに北とぴあで行われた東アジア文化フェスタです。

東アジア文化フェスタとは、日本の方の主催によって行われる日本、中国、韓国、朝鮮の四カ国の、芸術競演の場です。今年で三回目を迎えた当公演は、日本の琉球舞踊や民族歌舞団、韓国の民族楽器演奏、中国の京劇や変面、歌や太極拳など、様々な国・民族の多彩な踊りや演奏などが一同に集まる貴重な場なのです。

私はその舞台に、朝鮮舞踊を披露するため、東京朝鮮中高級学校の舞踊部の一員として出演することになりました。舞踊部とは朝鮮の伝統舞踊を学び、踊る朝鮮学校特有の部活です。この舞踊部を舞台に招待してくださったこと、朝鮮の代表として舞台に立てることを嬉しく、光栄に思う一方で少し心配な気持ちもありました。

「朝鮮学校」という言葉が観客と私たちの間に心の壁を作ってしまったらどうしよう、また、同じ舞台に立つ色んな人との間にも心の壁ができてしまったらどうしよう…

そんな憂いも露知らず、本番の時がやってきました。私たちは朝鮮の伝統舞踊である、「小太鼓の

舞」と「農楽舞」を披露しました。

緊張で心臓は飛びはねるようにバクバクしていました。しかし私たちは、見ている人々に朝鮮舞踊の魅力を伝えたいという一心で、めいっぱい踊りました。すると、観客席から聞いたことのないような大きな拍手が湧き上がったのです。私は胸がいっぱいになりました。最後には出演者と観客のみんなでふるさとを唄いました。日本、中国、韓国、朝鮮。

それぞれが思い描くふるさとは違えど、こうやって同じ一つの舞台に立って文化を分かち合うことに大きな意味を感じました。

舞台が終わった後、観客の方たちが暖かい声をかけてくれました。朝鮮舞踊とても素敵だった、これからも頑張って、朝鮮学校応援しているよ、と。私は胸が熱くなりました。

私たちの気持ちが届いたんだと、まっすぐうけとめてくれたんだと本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。壁をこえて、心と心がつながったような気がしました。

様々な情報が大量に行き交う今日、自分の知らないうちに偏見を持ってしまったり、色眼鏡で見てしまうことは誰にだってありうることだと思います。しかしそれは人と人との繋がりを遮断し心の壁を作ってしまうでしょう。大切なのはお互いを知ること、心と心が繋がることではないでしょうか。今回の経験を通して互いの歌や踊り、文化の交流がそのきっかけになるということに気づきました。

偏見をなくし心の壁をこえた平和な世界をつくっていくために、まず、互いの文化を知り、そして共に歌い踊りましょう。

心と心を繋ぐきっかけが必ずそこにあるはずです。